

M190 サカモト経管栄養トレーナーⅡ



SAKAMOTO MODEL
CORPORATION

ユーザーズマニュアル (151218)

— I N D E X —

●はじめに／もくじ	1
●目的／内容	2
●使用手順	3-4
●取扱上の注意	5
●洗浄および片付けの方法	6

！
ご注意

商品到着時、すぐに本体と付属品を御確認頂き、不備、破損等ありましたら弊社または販売店まで御連絡頂けます様お願い申し上げます。

株式会社坂本モデル



こちらで動画をご覧くださいませ。→

はじめに

この度は弊社商品 サカモト経管栄養トレーナーⅡをご購入頂きまして誠に有難うございます。

商品を長く正しくお使い頂くために本ユーザーズマニュアルをよくお読みいただきご使用くださいます様お願い申し上げます。

尚、商品出荷時製品の点検は十分に行っておりますが、商品到着時すぐ開梱し、本体及び付属品の不足、破損個所等が無いか点検してください。

もくじ

はじめに／もくじ	1
目的／内容	2
使用手順	3、4
取扱上の注意	5
洗浄および片付けの方法	6

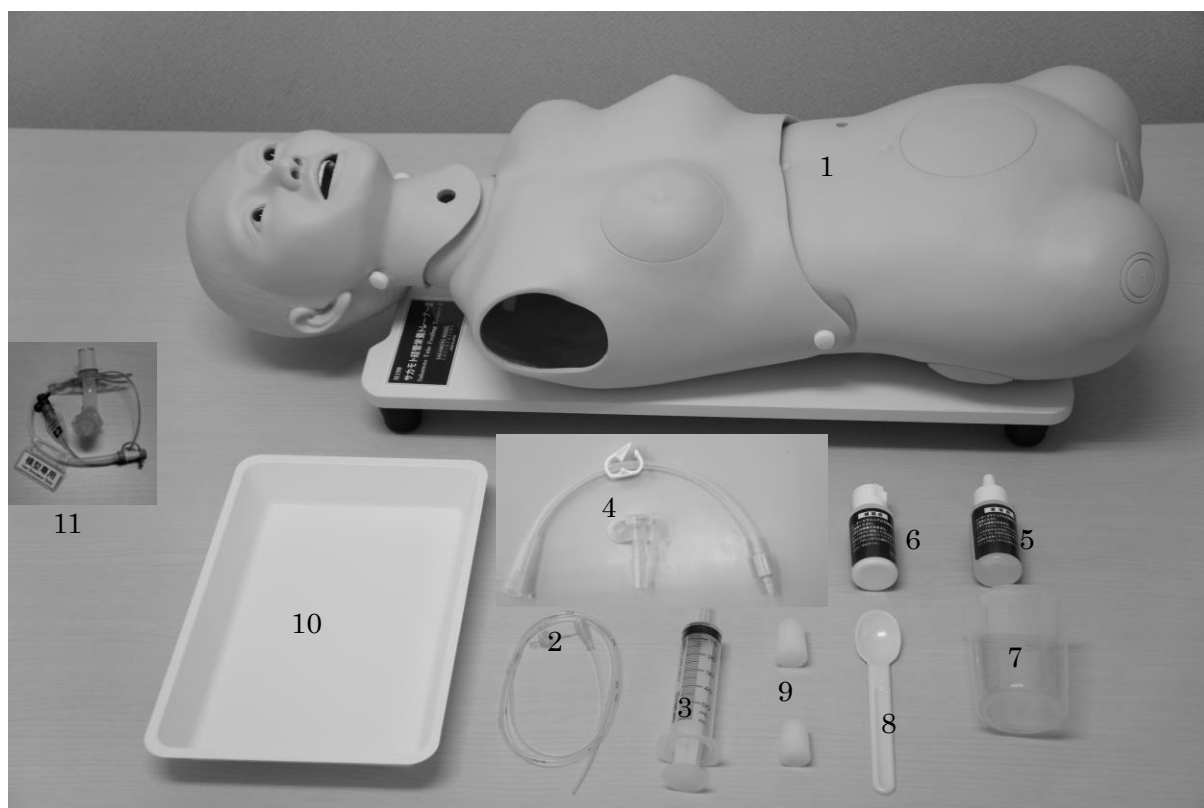
目的

下記の実習が可能

- 1 経鼻・経口経管栄養実習
- 2 胃ろうケア実習
- 3 胃のカテーテルの到達確認
- 4 栄養剤の注入実習
- 5 吸引

内容

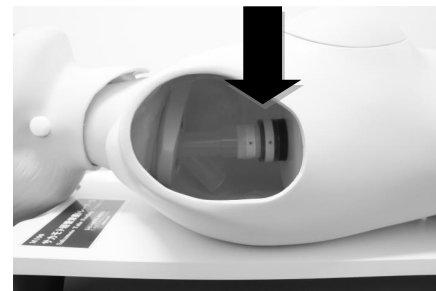
1 本体	1 台	7 模擬痰攪拌用容器	1 個
2 経管栄養カテーテル (8 F r)	1 本	8 模擬痰攪拌用マドラー	1 本
3 シリンジ (カテーテルチップ型)	1 本	9 シリコン栓	2 種
4 模擬胃ろう	1 式	(1 個は本体に装着しています。)	
5 専用潤滑剤	1 本	10 トレー	1 個
6 模擬痰	1 本	11 模擬気管カニューレ	1 個



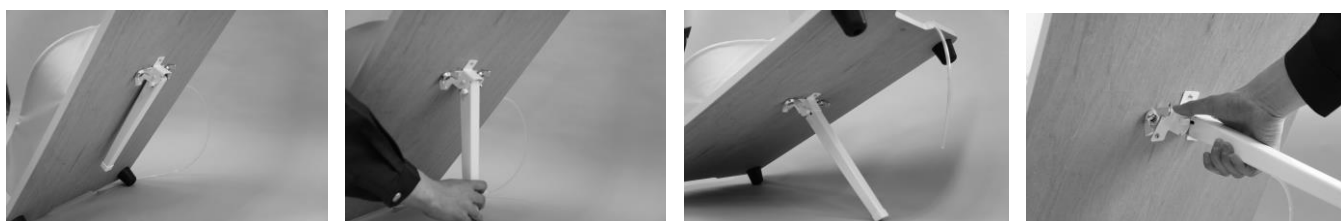
使用手順

- 1 ケースより、本体を取り出し平らな台等の上に設置してください。
本体を取り出すときは、ボディではなく、土台を持ってください。

- 2 胃のボトル、胃ろう用ボトルがしっかり
締まっているか確認してください。
胃のボトルはしっかり締め、最後に矢印
を合わせてください。(右図参照)



- 3 本体の角度をつける際は、本体背面についている支柱を立て、角度をつけてください。
(※角度は約30度に設定しております。)



- 4 口から水を容器1杯分(約200cc)注いでください。
(※この水は、胃内の聴診をする際に使用します。)

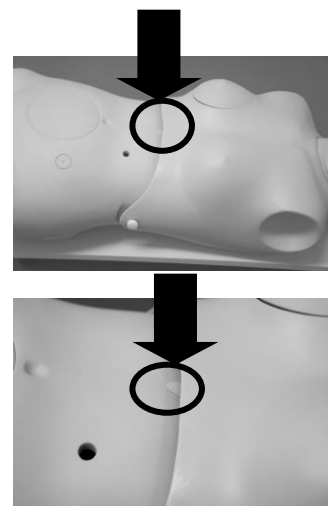
- 5 各実習(下記参照)を行ってください。

① 経鼻・経口よりカテーテルの挿入

- ・カテーテルのサイズは5Fr～15Frまで対応しております。
各カテーテルを挿入する際は必ずカテーテルに付属の専用潤滑剤を
塗布してから、行ってください。
カテーテルをテープ等で繰り返し固定する事が可能です。
保管の際には、テープをはがして保管してください。

- ・背面の支柱を使うことで、約30度の角度に設
定することができます。
頭部を左右に可動させることができます。
角度をつけた状態での過度の加重を加えるの
はおやめください。

- ・本体に胸骨の剣状突起のマークがあるので、
胃までの長さを測定するのに活用できます。
(右図参照)



② カテーテルの到達確認

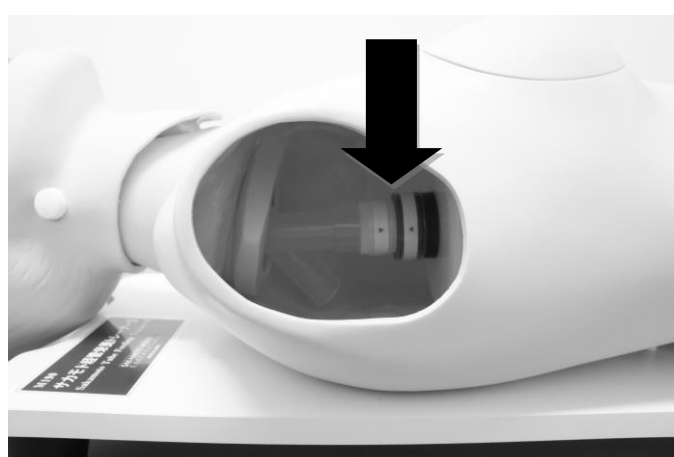
カテーテルが胃内に入っていることを胃液（水）の吸引、もしくは付属のシリンジで空気を入れ気泡音を聴診器で確認できます。

③ 胃ろう装着者のケア

胃ろう装着者のケアを実習できます。
付属の模擬胃ろうボタンを腹部に装着してください。

④ 栄養物の注入

- ・胃のボトル、胃ろう用ボトルがしっかり締まっているか確認してください。
- ・胃のボトルはしっかり締め、最後に矢印を合わせてください。（右図参照）
- ・経鼻・経口カテーテルまた胃ろうボタンから実際に栄養剤が注入できます。（胃の容量は1000ccです。胃ろう用ボトルの容量は500ccです。）



⑤ 吸引

- ・吸引カテーテルを用意してください。サイズは15Frまで対応しております。
- ・気管カニューレ内の吸引を手技される場合は、腰のねじをはずし、気管切開口より出ている透明チューブにシリコン栓を挿入してから行ってください。
付属の模擬気管カニューレを使用してください。
サイズはID 7.0から8.0が対応しております。
- ・挿管チューブ内の吸引を実習する際は挿管チューブを用意してください。サイズはID 7.0から8.0が対応しております。
- ・気管カニューレと挿管チューブを挿入の際は、必ず専用潤滑剤を塗布してから行ってください。

模擬痰の作り方

- ① 付属の容器に水を100ml入れます。模擬痰を10振り入れ、付属のマドラーを用い、とろみがつくまでよくかき混ぜてください。
- ② もう5振り模擬痰を入れ、よくかき混ぜ、しばらく粘度が落ち着くまで様子を見ます。模擬痰(粉)の量を増減することで粘度を調節できます。

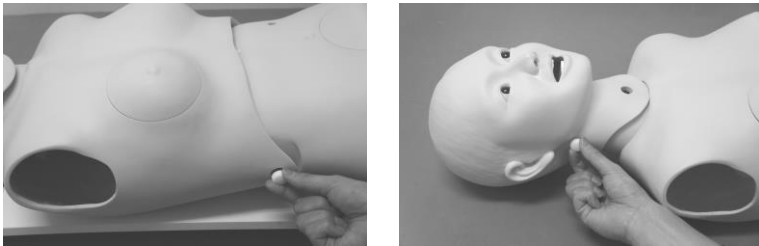
取扱上の注意

- 1 土台背面の支柱を立ててご使用の際は、商品に無理な荷重をかけない様ご注意ください。
- 2 実習される際、挿入の前に各種カテーテルの水分を拭き取った後、付属の専用潤滑剤を必ず塗布してご使用ください。
尚、潤滑剤は必ず、付属の専用潤滑剤のみご使用ください。
(その他薬剤ご使用の場合、故障の原因となる恐れがあります。)
- 3 油性のマジックやインクは、素材にしみ込んで取れなくなりますので使用しないでください。
- 4 模擬痰は人体には使用できません。
模擬痰を誤って体内に摂取した場合は、すみやかに医師の判断を受けてください。
- 5 付属の「**模擬気管カニューレ**」は人体には使用できません。
- 6 使用中異常を見つけられたら、すぐに使用を中止し弊社または販売店までご連絡ください。
- 7 本製品は高度な訓練を実現させたシミュレーターですが、実際の処置での同様の効果を保証するものではありません。
- 8 本製品は改良のため、予告なしに仕様変更する場合がございます。
あらかじめご了承ください。

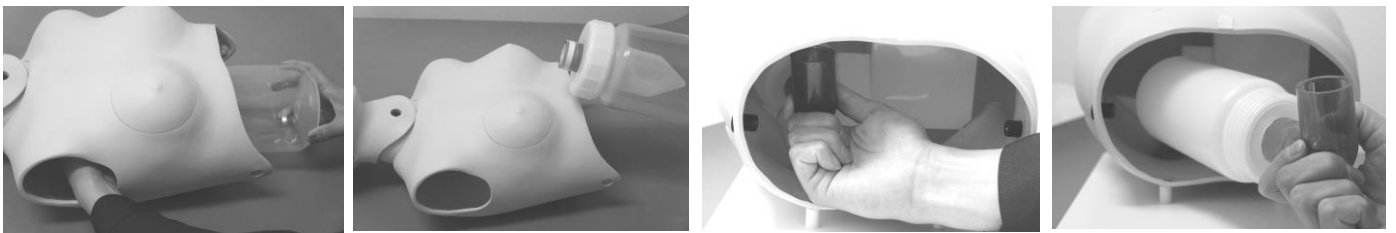
洗浄および片付けの方法

1 カニューレ類、模擬胃ろう、カテーテル類を取りはずしてください。

2 腰、首のねじをはずします。



3 胃ボルト、胃ろう用ボトルをはずし、内容物を捨てて洗浄してください。



4 頭部の食道と気管切開口に付属している透明チューブ内を洗浄してください。その際気管切開口に付属している透明チューブにシリコン栓を挿入していた場合はあらかじめ取りはずしてから洗浄してください。



5 それぞれ洗浄したものは十分乾燥させた後、組み立て、ケースに入れ保管してください。

株式会社坂本モデル



本社	〒606-0865 京都市左京区下鴨東高木町34
	Tel 075-701-1135
	Fax 075-722-5638
	URL http://sakamoto-model.co.jp
	E-Mail info@sakamoto-model.com

大阪工場	〒562-0035 大阪府箕面市船場東1-9-29